

第四回

平成二十九年 度
が
ん
川
柳
集

が
ん
川
柳
五
・
七
・
五

〜が
ん
患
者
の
思
い
を
川
柳
に
の
せ
て
〜

もくじ

もくじ	1	がん川柳作品	11
刊行にあたって		患者さんの句	11
		家族の句	25
		支援者の句	33
		その他	35
院長あいさつ	2	がん患者の思いを川柳にのせて	42
		がん川柳の啓発活動	42
副院長・連携室長あいさつ	3	あなたの一句を	47
			47
緩和ケアチームリーダーあいさつ	4	おわりに	48
			48
優秀作品	5		

刊行にあたって



院長
明秀 穴井

全国のがん患者さんやそのご家族の方から川柳を募って四年になります。第一回が九十四作品、第二回が六十七作品、第三回が六十七作品で第四回が百四作品と今回は特に多くの作品が寄せられました。いかにこの川柳の輪が広がってきているかがわかります。患者さんやご家族同士がお互いの悩みや苦しい思いを川柳に託して、打ち明ける事により、共感し心の重荷を分かち合えるのではないのでしょうか。

平成二十九年七月二十一日(金)の夜、NHK大分のローカル番組三十分枠で「がん川柳君に伝える 心の声」として放送されました。その後、同じ番組がNHKBSでも全国放送されました。さらにそれが英訳されて、平成三十年二月にNHKワールドTVで約百六十の国・地域で放送されました。まさにローカルからグローバルへと広がっていききました。「がん川柳 心の声に 国境はなし」の心境です。

平成三十年一月から、当院の基本理念も変わりました。「愛の心・手」で病める人々に寄りそう医療」という理念です。病める人々の人々には「患者さん、その家族、医療職の人々」の意味があります。また寄りそうには「家族のように、親友のように、恋人のように、自分が大切にしている人のように」寄りそっていたいただきたいという気持ちが含まれています。この「がん川柳」を通して、がんに病める人々に寄りそっていききたいと思っています。ぜひ、ご一読いただけたら幸いです。



副院長・連携室長
吉 伸 須 奈

今年も、全国から多数のがん川柳が集まりました。投稿していただいた皆さま、大変ありがとうございました。数々の心に響く”おもい”に触れることができました。

このがん川柳が、不幸にもご自身やご家族、友人などががんになった方々にとって、少しでも気持ちに楽になることに繋がれば幸いです。病気でない方々ががんに関心を持つきっか

けになると有り難いです。

私も、がん診療に携わることの多い医師の一人です。がん川柳を読むと、医療従事者对患者の関係ではなかなか表出できにくい本心が有ることに気付かされます。

医療従事者が病者に接する時は、病気に接するのではなく、病者のところに接して寄り添うことが肝心です。医療技術を駆使することも必要ですが、寄り添う医療の実践はもっと大切です。昨今、医療技術の進歩、IT化等が話題になっていますが、医療が高度になればなるほど心のケアの重要性はますます高まると思います。

闘病中の方、がんについて気になる方、そして医療に携わる方々も、がん川柳をぜひお読みください。きつと皆共感して優しい心を持てるようになると思います。



緩和ケアチームリーダー
高祖英典

本年も皆様のご協力により「がん川柳集
がん川柳五・七・五」を発刊することができま
した。大分医療センター緩和ケアチームの一員
として感謝申し上げます。またがん川柳にご
応募いただきました患者さん・ご家族・支援
者の皆様にも併せまして感謝申し上げます。
この取り組みも次第に認知度が高くなり、私
たちが驚かされるような反響もあり大変嬉し

く感じております。これほどの反響があると
いうことは、患者さんやご家族がこのような場
所を求めていたことの現れとも考えられます。
それを提供できた喜びがある一方で、今まで
気づけなかった思いがあったことは反省するこ
ろです。今後この取り組みを継続して患者
さんやご家族の思いをくみ取る努力を続けな
がら、まだ表せられない思いが無いか引き続
き検討し、和らげていくことができるように
取り組んでいこうと考えております。今後も
皆様のさらなるご支援をよろしくお願いいた
します。

優
秀
作
品

優秀作品賞

手術（乳がん）後に

生まれた孫は

もう二十才

大分県 冬子

●作者からのメッセージ

29年7月に熱中症みたいな症状で緊急入院した時、貴医療センター内ロビーに掲示していた癌川柳を見ていたら、ふと妻が乳がんで入院していた時に生まれた孫の事を思い出し孫が30年1月に成人式を迎えると聞いていたので、あれからもう20年かと、そのままの気持ちをかいて応募した次第です。

優秀作品賞

代りたい

息子の嫁に

がん告知

大分県

●作者からのメッセージ

息子の嫁が膵臓がんの告知を受けて3年。
ホスピス専門病院へ転院したいと言い出した。転院して3ヶ月余りで嫁は生涯を閉じたが、私と妻に感謝の気持ちを書いた手紙を残していた。ホスピスに移る決心をした嫁は自分の余命を悟っていた。たまらない、代わってやりたかった。

優秀作品賞

がん健診

健康寿命

延ばす鍵

大阪府
豆助

● 作者からのメッセージ

がんから身を守るためには、定期的に健康診断をきちんと受けて、できるだけはやくがんを見つけることです。

そうすれば、治療も短期間で済むし、心も身体も負担が少なくて済むからです。健康寿命も延ばしたいなら、是非、健康診断を受けましょう。長生きする秘訣でもあります。

優秀作品賞

病む人も

家族のもとで

過ごしたい

奈良県

● 作者からのメッセージ

健康だと思って過ごしている人でも、ある日突然にがんと診断され、苦痛とたたかい、悶々とした日々を送ります。闘病生活が長ければ家族も同じ思いを味わうこととなります。最近の生活事情、住宅事情の変化で、病院での治療となります。願わくば、生まれ育った自宅で余生を、家族に看取られながら過ごせればと念願するものです。

優秀作品賞

大切な

時間に気付く

がん告知

兵庫県
修平

患者さんの句

息を止め

医師の顔の動き待ち

目もとのゆるみにホットする

駈

花舞うに

身をかけぬける

カラツ風

駈

春になり

又芽を出すのか

ガン細胞

大分県 ガン心中

がん種類

多いも病まず

今を生き

大分県 ふくろう

癌様も

笑い声には

ちかづけぬ

大分県 寅次郎

がん川集 せんしゅう

読んだら心が

強くなり

大分県 花のボランティア

癌友よ

ゴルフも癌も

俺が勝。

白杵市 とまと

完治だと

言われ心は

快晴に

香川県 みぢんこ

麻央さんに

前向き心

取り戻す

香川県 みぢんこ

胃全摘

いたって元気

30年

落語聞けば

がんも一緒に

笑い出す

おつばね

胃全摘

ばりばり食べて

喜寿迎え

大分市 いさお

手術まえ

友に誘われ

温泉へ

ガンになり

感謝感謝で

乗り越える

うれしの

運命ならさだめ

活ると信じし

癌に勝つ

末期がん

活し生きたい

役立ちたい

埼玉県 氷川の杜

埼玉県 岩窟王

悪化して

生きたい思い

強くなる

大分県 紫の露

再発の

がんには負けじと

紙に書く

大分県 ナダ

処置済んで

次の願いは

無事五年

福岡県 イッチー

ガンサロン

皆んな明かるい

顔になり

大分県 寅次郎

ガンガンと

がんを負かす

薬はまだか

術後二十年女

娘より

ガンに負けるなど

千羽鶴

大分市 ガンバロー

手術痕

ガンの克服

誓いつつ

大分県 けんじ

ガンになる

生活習慣

なのかしら

神奈川県 はぎくら

検査終え

今日のランチは

ファミレスで

胃を切除

機能しないよ

腹時計

ガン転移

ステージ4の

徳俵

がん治療

逃げも隠れも

できぬ歳

がんになり

気力ますます

わきい出る

カーナビも

癌に会うとは

教えない

朝目ざめ

癌は寝ている

今日も晴れ

我が子らに

公表自分が

楽になり

生かせてよ

ガンの神様

もうちよつと

婦人科の

がん検に友

苦笑い

癌なぞに

負けてたまるか

俺は勝つ

お医者様

信じこのガン

乗り越えよう

その怖さ

分かるけれども

成るように成る

守ろうよ

一つしか無い

この身体

愛いとしさを

感じて生きよう

生命力

生きる気と

周りの支えが

がんつぶす

医師信じ

まな板の鯉

祈るのみ

洪水の

押し寄せる前に

対処する

クジならば

当たっただけよと

余後を生く

みっこ

お互いに

お疲れさまに

ありがとう

はぐれ雲

生きる笑み

闘う気持ち

その心

今日もまた

ガンと同居の

朝が来た

感謝して

未来恐れず

今生きる

戦うよ

負けるわけには

いかないの

今頃は

がん健診で

待った有り

ギザギザ仮面

がんにさえ

負けぬ笑顔は

誰に似た



家族の匂

家族ぐるみ

ピロリを退治

胃がんゼロ

大分市 せつこ

病氣して

夫のつらさが

身にしてみる

プリン

五年目の

今も変らぬ

あの想い。

告知とて

赤紙届く

よりはまし

奈良県 よもやま話

あと5年

生きてよあなた

約束よ！

大分県 こゆび

「子を生んで

くれてありがとう」

伝え逝く

大分県 剛ちゃん

家族愛

がんが絆の

仲立ちに

病にて

ちと試される

自自力

ラン

がんと知り

ドクターの顔が

神に見え

最期まで

強い優しさ

母保ち

岐阜県 清流

初孫に

さし出すその手を

けり返す

大分県 おいちゃん

予知なくば

地震もガンも

備えあれ

がんに勝ち

もつと笑顔で

生き暮す

大分県 亀は万年

勇気です

同じ苦しみ

持つ仲間

のりこえた

癌の向うに

秋の空

ほしかりき

翼をつけて

はげました

やさしさを

残しあなたは

空の人

新薬を

のせた天使が

きつとくる

先に待つ

あの世の息子を

母知らず

できること

やってあなたを

救いたい

なわな

この命

あなたと家族も

関わってる

なわな

特別の

扱いいらぬ

平生で

なわな

二回目は

無事前回の

告知あり

四季

頑として

がんに負けない

気が大事

静岡県 みゃんくん

生きたいよ

夫と子供に

がん告知

がんに勝ち

妻とばあばの

二刀流

勇気出し

早期治療で

元気になる

支援者の句

立ち向かう

強い気力も

治療後

静岡県 春爺

位なくな妻つま

癌がんがどうした

まだ逝いかぬ

お見舞いの

ひ孫の顔で

元氣出す

山野柘榴子

そ

の

他

初対面

お互い仲良く

御手柔らかに

千葉県 てこぼん

癸見も

治療も今は

えれがんと

愛知県 ばいなりい

諦めぬ

希望の明日が

ある限り

千葉県 江戸川散歩

がん治療

急がず休まず

これ秘訣

千葉県 湯快爺

がんになり

見つめ直した

我が人生

大阪府 北斗

克服し

社会復帰し

生き抜くぞ

大分市 道山

心配を

するな医学は

進んでる

愛知県 河太郎

長期戦

必ず最後は

ガンに勝つ

オー四季の

温泉治療

が多々いい

ときめきき

怖くない

ガンも自分の

細胞だ。

福岡県

マーカードも

ゴルフもいいが

ガンが先。

福岡県

医者嫌い

頑固者でも

ガンに負け。

福岡県

ガン退治

タバコと酒を

断ってやり。

福岡県

オペをして

命びろいの

早期ガン。

福岡県

がんに勝つ

がんばれからだ

願かける

このハゲと

抗癌剤に

ののしられ

大分県 婚活難民

生きがいを

ふり返らせる

ガンに礼

闘いも

家族の支え

あればこそ

噂では

近赤外線

いろいろしい



を川柳にのせて～ 啓発活動

がん川柳表彰式



がんチャリティーイベント
リレー・フォー・ライフ大分
2017



～がん患者の思い がん川柳の

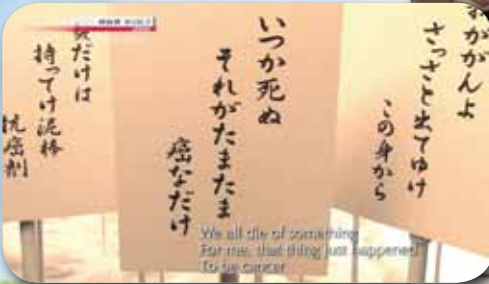
大分医療センター以外の
がんサロンで交流



外来フロア掲示



世界160ヶ国 テレビ放送



テレビ全国放送



一般書店にて



新聞掲載



講演



あなたの一句を



日付 (/ /)

おわりに

最後まで読んで頂きありがとうございます。全国から集まったがん川柳を通じて、皆さんはどのようなことを感じただけでしょうか。

このがん川柳集冊子は今回で四回目となります。がん患者さんやがん患者さんを支えている家族・知人・支援者等が、がんにまつわるエピソードや日頃の思いを、五・七・五の十七音の形式の川柳にのせて、感情表出を行い心のケアを行うことやがん川柳の思いを地域・社会へ発信し、がん患者さん等の思いを共有することを目的に、二〇一五年三月に第一回のがん川柳集を発行しました。本冊子は、院内配布・掲示は勿論のこと、がんチャリティーイベントや当院以外のがんサロンでの活用や書店にての無料配布、また新聞やTV等にも取り上げられ、様々なところで発信することができました。今年度、日本で放送されたがん川柳のTV番組が

英訳され、世界一六〇ヶ国へTV放送され、日本だけでなく世界の人々へ『がん』の思いを繋ぐことができました。

この度四回目となる平成二十九年度がん川柳集が無事刊行できたことを嬉しく思います。本冊子も多くの方々に『がん』の思いを共有できることを願っています。

最後に、本冊子をつくるにあたり、がん川柳を応募してくれた方々やがんサロンに参加してくれた方々、がん川柳に触れ共感してくれた方々、そして病院のスタッフ等ご支援して下さった皆さんに厚くお礼を申し上げます。

がん相談支援センター

ローシヤルワーカー 岡江晃見
がん性疼痛看護認定看護師 廣田 紘子

第四回

平成二十九年 度

がん川柳集

がん川柳五・七・五

がん患者の思いを川柳にのせて

発行日 二〇一八年三月三十一日

発行・編集 独立行政法人 国立病院機構

大分医療センター

大分市横田二丁目十一番四十五号
電話 〇九七―五九三―一一一

